

# 議会広報広聴委員会 1年間の振り返り（2021-2022）

2023年1月25日

議会広報広聴委員会  
委員長 三浦大紀

スローガン

【2021 – 2023】

より

“ 議会を身近に ”

～双方向の関係構築～

【2019 – 2021】

“ 市民の声を第一に ”

～聴くことからはじめよう～

# 活動方針に対する中間の振り返り

前委員会から申し送りのあった事項を踏まえ、それらに継続して取り組むとともに、「わかもの」を意識した活動を新たに取り入れながら、議会に対する理解促進を図る。

- 1、広聴：市民の声を聞き、政策に反映させるための情報収集
- 2、広報：収集した情報をどのように扱ったかを知らせるための情報提供

## 第2回一日議会 YouTube再生回数

709 回

\* 2023年1月19日現在  
前回の再生回数は2020回（2023年1月19日現在）。議会の記録用動画よりも再生回数は多い。

## miniへのアクセス数

1,787 回

\* 2021年10月～2022年9月  
認知度が低い。定例会議間の活動報告の最適な手法を再検討する必要あり。

## 議会だよりの 発刊数

12 回

\* 2021年10月～2022年9月  
定例会議間の活動報告の最適な手法を再検討する必要あり。

## アンケートで 寄せられた要望数

26 件

\* vol.63（2021年12月1日発行）～vol.66（2021年9月1日発行）  
vol.59（2020年11月1日発行）～vol.62（2021年9月1日発行）は37件。現在は自由回答のみとなっている / 他の意見手段も増えた / アンケートボックスまで投函しない（昨年度は電子申請サービスが多い）

## 広聴の機会開設

38 回

\* 2023年1月19日現在  
議会7（一日議会、地域協議会、県大）  
総務1（図書館） 福祉0  
産業3（漁業、農業、林業）  
予算0 広報0 議会改革0  
協働27（まちセン、コーディネーター）  
議会全体としての広聴機会は増えている。  
取り扱いとともに質の向上が求められる。

## 議連の発足数

\* 一日議会を経て

1 団体

\* 2023年1月19日現在  
一日議会における提案を経て、議会全体で対応を検討した後に、有志で発足。定期的な情報交換が開催されている。

# 1、広聴：市民の声を聞き、政策に反映させるための情報収集

## ①収集情報の増量

▶議会に対する発言時間の確保（井戸端会議の見直しor市民スピーチの開催）

→地域協議会との意見交換会の開催、はまだ市民一日議会の開催、常任委員会への申し入れ

課題①：地域協議会との意見交換会の進め方の整理 ￥：★

課題②：はまだ市民一日議会の継続を踏まえた要項やルールの整理 ￥：★

課題③：上記取組の整理と合わせた議会報告会（井戸端会議）の実施検討 ￥：★

\*常任委員会における広聴機能の強化



・課題①：継続して2回目を実施。広聴機能の担保は図られているが、聴取した意見の取り扱いについては、他のものとの整理が必要。井戸端会議の復活と合わせて、今後のあり方を検討する必要がある。

・課題②：第一回目の課題を整理してスムーズに実施できた。多数の若者の参加があり、広聴手法として一定の成果があると考えられる。満足度も高い評価。反省点や新しい提案を踏まえて、第3回目の実施等を今後検討。

・課題③：井戸端会議の実施について協議を開始。来年度春の実施に向けて着手できた。「議会活動の報告」という広報の機会としても内容を吟味する必要がある。

# 1、広聴：市民の声を聞き、政策に反映させるための情報収集

## ②（議会における）反映度の向上

▶政策討論会の活性化（政策形成サイクルの定着）

→常任委員会での回答検討の定着化

課題①：常任委員会以外の枠組み設置可能性の検討 ￥：★

課題②：意見・要望の取り扱いについての整理 ￥：★



・課題①：取り組み課題でのピックアップや議連の設立などに繋がった。所管委員会への広聴機能強化については再度申し入れを行い、議会全体での広聴機能強化を働きかけた。

・課題②：聴取した意見の取り扱いについては、全体的に整理が必要。議運等での議論を求めることも検討が必要。議長なんでもメール、市民一日議会、読者アンケート、請願・陳情など・・・



## 2、広報：収集した情報をどのように扱ったかを知らせるための情報提供

### ①提供情報の増量

#### ▶ミニ広報のウェブ配信

年4回の議会広報では伝わりにくい議会活動の合間の時期に、議会HPをつかって情報を発信（低コスト）。

意見交換会や定例会以外に開催された委員会情報、視察報告、議長の公務状況など、情報発信頻度を高める。

→議会だよりminiの発刊（web版）

#### ・課題①議会だよりminiの存在アピール（本誌との連動強化 など） ￥：★

#### ▶各議員のウェブサイトをクリック

個別の活動内容も分かるように、ウェブサイトやSNSのリンクを提案

→リンク掲載

#### ▶webのリニューアル

わかりにくい階層の解消、リンクの貼り直し など

→既存サイトでの見直し

#### ・課題②：見やすさ、わかりやすさを意識したリニューアル ￥：★★★

#### ・課題③：スマホ閲覧への対応（最適化） ￥：★★★



・課題①：miniの認知度は残念ながら十分とは言えない。議会だより含め、市民への周知に向けた取り組みが必要。各議員にも活用を提案。

・課題②③：ウェブサイトのリニューアルについては予算要求に至らなかったが、議会の取り組みをわかりやすく伝えるには、リニューアルは必要と考える。スマホの最適化含め、引き続き検討したい。

## 2、広報：収集した情報をどのように扱ったかを知らせるための情報提供

### ②情報の平明化

▶議会だよりの追加見直し（提供情報の整理）

メディアとしてのあり方を再度検討。読み物としての質を高める。

→紙面のリニューアル（新企画設置、読者アンケートの実施、制作プロセスの見直し、webとの連動性強化 など）

・課題①：新企画等の効果検証 ￥：★

▶議会活動PR動画の制作

活動の状況をよりわかりやすく動画で紹介 など

・課題①：新年度からの紙面について、内容を見直すこととしている。

①ここがポイント：トピックスと内容が重複している。定例会議の様子を記すに留めて、具体的な事項はトピックスにて取り上げる。

②市民対談：議会としての視点が弱いため、市民の関心の高いテーマを選定し、全議員の意見を掲載するようなページへのリニューアルはどうか。

③議会の動き：議会＝定例会議と捉えられている印象。定例会議の間も活動していることを伝えるために、委員会審査でのやりとりや議員間討議の様子を掲載すべきではないか。

④読者アンケート：アンケート調査を行うまでに至っていない。自由回答のみ。アンケートボックスの設置は行いつつ、限られた紙面の中でアンケート欄を設けることの是非については議論が必要ではないか。

⑤制作に関しては、委員の積極的な協力により、負担の分散が図られている。また、事務局及び業者との役割の棲み分けも整理できている。

・議会活動PR動画：未着手。改めて必要性から再検討。

## 3、主権者教育の推進

### 小中高などとの接点確保

手法によっては行政や学校の協力も必要になるため、関係者との協議が必要。＊具体的手法は今後検討。

(取り組み例)

- 1：模擬選挙の実施（実際の総選挙と同じ方法で行われている）
- 2：学校課題（各党の立場や主張を、実際の選挙の場で調べる）
- 3：学校会議（生徒、校長、教員、保護者、外部から構成されており、学校の行事や規則などを決定する）

<https://www.katsuiku-academy.org/media/active-citizenship/#title2>

- 4：市議会見学の見直し
- 5：わかりやすい政治解説冊子の作成 / 議会だよりでの解説 など



・共同研究事業が採択され、県立大学と事業を実施。大学生との対話イベント、SNS活用講座、インターンシップの受け入れ（政策議論など）を行った。大学生からは貴重な意見が多く出され、議員側からも継続を望む声が聞こえた。今後報告される研究成果を踏まえ、大学生を対象とした事業のみならず、小中高生との接点作りなどの方法についても検討したい。

・コンソーシアムが主催するイベント等へ参加した（希望議員）。こうした機会には今後も積極的に参加したい。

了